学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	生徒・進路指導論				
担 当 者	田中達也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.1	5.0	5.0	4.9	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>本授業の目的は、生徒指導・進路指導及びキャリア教育のための知識や技法の習得だけではなく、生徒指導や進路指導及びキャリア教育の対象、意義、目的を追求する中で、学生の皆様が、対話的な講義を中心に共に考え、語り合い、児童生徒に寄り添う支援者（教員）として求められる資質・能力の育成を目指すことであります。</p> <p>授業では、皆様が時々の話題に応じて自身の考えを積極的に交流し、他社との違いを認識しながら議論を深める姿が印象的でありました。特に、教師と児童との合意形成に関する話題では、教師からの一方向的な教授ではなく、児童とともに学びを創り上げていくことを重視されており、感心しました。また、進路指導におけるキャリア教育【自身の強みの認知】では、仲間と共に、自身の強みについて交流することで、自分一人では見つけることのできなかつた、自分自身の強みに気づくことができていました。あの活動での皆様の笑顔は大変素晴らしいものでした。さらに、教職とは別の進路に進まれる方もおられましたが、積極的に意見を発表してください、丁寧に議論を行うことができておられました。</p> <p>本授業での学びは、社会人としての対人関係能力の向上やご自身のキャリア形成への新たな視点の獲得、発達にもつながるものであったと思います。短期的な資質・能力の向上だけでなく、中・長期的な視野をもって、これからのご自身のキャリアを考えてください。皆様のさらなるご活躍を期待しております。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教科指導法（理科）				
担 当 者	田中達也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.6	5.0	5.0	5.0	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>本授業の目的は、学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことであります。</p> <p>模擬授業では、児童の興味関心を高めるための教材研究や、指導の展開について、非常に高いレベルで構想がされており、感心しました。また、模擬授業における児童への声掛け、安全面への配慮も大変素晴らしいものであります。さらに、児童役として参加される皆様が、知的に楽しい理科の学習になるために協力をされながら、一つ一つの授業を楽しんでいただけたことが大変印象的です。</p> <p>後期からは教育実習がはじまりますが、本授業で学んだ、児童の興味関心を高めるための導入の工夫や、児童の思考の流れに沿った学習展開について、自信をもって実践していただければと思います。</p> <p>最後になりましたが、教員採用試験と模擬授業が同時進行となり、大変タイトなスケジュールの中、本当によく頑張っていたと思います。これからも頑張っていきたいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教科指導法（小中理科）				
担 当 者	田中達也				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.3	5.0	5.0	4.9	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>本授業の目的は、学習指導要領の内容を踏まえつつ、学習指導案・教材の作成や、模擬授業の実践を通じて、理科の授業を成立させるために必要なことを学ぶことであります。</p> <p>模擬授業では、各領域・校種における多様な実践にも関わらず、児童を理科の授業に誘うための創意工夫のなされた教材研究がされており、感心しました。また、一人の学びではなく、受講者全員での学びとして、回を追うごとに模擬授業の質が向上していったことも大変素晴らしいものでした。模擬授業者の立場だけでなく、児童役としても丁寧に学びを重ねてこられたからであると思います。さらに、物理学概論で学習したアーギュメントを模擬授業に導入している場面も見られ、本学での学びを有機的に結び付けられておられる場面もあり、感心しました。</p> <p>本授業で学んだ、児童の興味関心を高めるための導入の工夫や、児童の思考の流れに沿った学習展開について、KITや教育実習の場面でも、自信をもって実践していただければと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	保育原理				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	3.8	4.0	3.9	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>本科目は保育に関する基本的な内容を教授するもので、授業の前半では、保育に関する法的根拠や保育制度、近年の保育に関する社会的問題などを取り上げました。また、後半は具体的な子どもの発達や保育内容、保育者の援助方法や環境構成の在り方についてと多くの教授内容を概論的に理解できるよう、子どもの成長が感じられる感動的な動画を用いて説明するなどの工夫を行いました。</p> <p>受講生の皆さんが授業を通して、乳幼児期の保育・教育を理解し、その重要性を深く認識していただきたいと思います。授業を行いました。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、受講者は1年生全員で、保育・幼児教育を目指している方と義務教育を目指している方の両方が受講されています。授業評価を見ると、目指す方向生の違いから、関心が持てなかった方もおられたのではないかと推察しました。</p> <p>乳幼児期の保育・教育は子どもの生きる力の土台を形成する、非常に重要なものです。保育者・教育者を目指す全ての方に関心をもって理解していただきたいと思います。そのため、受講生の考えを取り入れながら、より分かりやすく、関心がもてるような教授方法を模索し、授業改善していきたいと考えています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	保育実習指導Ⅲ				
担 当 者	稿本好市				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.6	4.9	5.0	4.9	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>好評価をいただきましたこと、お礼申し上げます。今後も学生にとって利益となる講義内容に すべく工夫に努めていきます。受講ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	社会福祉				
担 当 者	橋本好市				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	3.8	3.8	3.9	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>厳しい評価をいただきましたこと、反省いたします。今後も学生にとって利益となる講義内容にすべく工夫に努めていきます。受講ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	子育て支援				
担 当 者	大城亜水				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.7	4.8	4.8	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>将来皆さんが就職される先には必ず保護者がいます。保護者と一緒に子どもの成長を見守るために、保護者の悩みを聞き、相談に乗り、寄り添いながらサポートできる知識や技術が必要になります。今回の演習でディスカッションしたり、発表したことをぜひ現場でも活かしていただければと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	情報基礎				
担 当 者	大城亜水				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.3	4.6	4.4	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>今回の演習で学んだ知識や技術は、上回生になっても、卒業して専門職業人になっても必ず求められる能力です。そのため、継続して学び続け、スキルアップしていくことが重要です。実践の場で生かすことができるように、演習内容をふりかえって、苦手な課題をできるだけ克服するようにしておきましょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	教育と情報				
担 当 者	大森雅人				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.6	4.6	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>新型コロナも5類移行となり、安定して対面授業の実施が可能となりました。(流行は終息していないので、油断は出来ないのですが・・・) 本授業もすべて対面で実施しましたが、この授業で作成した教材動画作成の技術は、次の有事の際に遠隔授業を作成する場面で活用可能です。そんな事態は来て欲しくありませんが、昨今の状況を見ていると。さまざまな不測の事態にも対応できることが大切と考えます。</p> <p>授業メモや振り返りの manaba レポートは、ほぼ毎回ありました。お疲れ様でした。書かれた内容を見るのが楽しかったです。例年は、「反転授業」の回で、相互閲覧機能を用いてお互いのレポートにコメントを付ける課題を取り入れていましたが、今年はグループワークに切り替えてみました。その結果、各グループに深い考察が見られました。これは、本当に嬉しく感じています。</p> <p>これから、教育・保育・福祉の現場や一般企業などに巣立っていく皆さん、今回本授業で触れた内容は、アフターコロナの社会では、形態の違いはあるでしょうが、ますます重要になっていくと考えられます。経験を通じて得られたことを、しっかりと活かしてください。</p> <p>不確実なことが多くなる未来社会を、力強く歩んで行かれることを、心から願っています。皆さんの活躍に期待いたします！！</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育内容（環境）				
担 当 者	大森雅人				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.5	4.5	4.4	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>昨年度に新型コロナウイルス感染症が5類に移行してから、授業運営はやっと落ち着きました。(流行は終息していないので、油断は出来ないのですが・・・) 高校時代から始まったコロナ禍で、当たり前の生活に制約を受けてきましたが、感染対策に一定の配慮をしながらも、大いに学生生活を楽しんでほしいと思います。</p> <p>本授業では、ほとんどの授業回で、授業を振り返るレポートを課しました。ひとりひとりの内容を見ていると、過去の先輩達が見せてくれたのと同様の、学びの深まりを感じました。皆さん、とても深く考えておられたと思います。今回は、それをAIで分析してフィードバックする試みも実施しました。皆さんはどう感じられたでしょうか？</p> <p>また、相互閲覧形式でコメントを付け合う形式も実施しましたが、こちらでも単なる賛辞ではなく、意味を読み取った深い内容のコメントが多々見られました。保育内容（環境）のmanaba上に、皆さんの学びの共同体が形成されていたと感じています。こうしたことは、対面型のコミュニケーションではなかなか経験ができなかったことなので、皆さんの学びに新たな可能性を感じています。</p> <p>本授業で学ばれたことは、現場での保育実践において、その質を大きく左右するものとなります。皆さんの中に、大切な部分が定着していることを強く願っています。</p> <p>本授業と対をなす授業「子どもと環境」が、4年生後期にあります。2年後に、再び皆さんと領域「環境」に関わる内容でお目にかかることとなります。そこでは、今回の授業で伝えきれなかったことをお伝えします。楽しみにしておいてください！！</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	保育指導法 AB				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.2	4.5	4.6	4.6	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>本授業はグループごとに保育の教材研究・指導計画立案・模擬保育・事後反省会を行い、より実践的な内容で取り組みました。</p> <p>受講生は非常に熱心に授業に取り組んでくれたと感じています。保育者役、子ども役、観察と様々な形態で毎回の授業に参加し、よりよい環境構成の在り方や子どもの発達に応じた教材の提供の仕方、子どもが集中して話が聞けるような話し方や適切な言葉、そして共感的かかわりと具体的な指導方法など多くのことを学ばれたと思います。特に事後反省会では保育の内容をよく考察し、しっかりと話し合いができていたと感じ、保育の見方考え方を深められたのではないかと思います。</p> <p>授業ではグループ単位での模擬保育でしたが実際の実習では、一人で行うことが基本です。授業の経験を基に一人一人十分努力し、実習で活かしていただきたいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	幼児理解				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.2	4.2	4.2	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>保育実践は幼児を理解することから始まります。一人一人の子どもが、何を願い、どんな気持ちで日々過ごしているのかを子どもとの関わりや観察を通して理解します。その上でその子にあった保育内容を考え、保育を行います。</p> <p>また、幼児理解の基本はカウンセリングマインドであるという考えにたち、子どもの立場になって子どもを受け入れ共感し、幼児理解を図ることができる保育者になってほしいと願い、授業を行いました。</p> <p>授業では幼児理解の基本的な理論や心理学的なアプローチなどの教授と具体的な事例をもとに考察した内容を出し合い、考えを共有しながら理解が深められるような内容を取り入れました。</p> <p>皆さんからは私自身が思っていたものより、よい評価をいただけたので少し安心しました。しかし、初めて担当した科目であったので、試行錯誤しながら授業研究を行い、反省点も多々あります。今後も幼児理解により関心が深まるような内容や教授方法を探究していく努力をしたいと思います。</p> <p>また、自由記述では、「授業中に(QRコードから)各自が匿名で考えをスマホに入力し、即座にスクリーン上にその内容を提示して、全体で共有することで様々な考えを知ることができてよかった」という意見が4名ありました。一人一人の考えを全体で共有することで、見方や考え方を広げることができたのはよかったと感じました。他には「授業中に騒がしい時は注意して静かな環境をつくってくれて、授業に集中できた」という意見が2名、反面「話し声が大きくあまり集中できなかった」という意見が1名ありました。私語をして学習環境を悪くするのは皆さんの学ぶ権利を侵していると思います。私も注意をしていきますが、まずは学生一人一人が自覚をもっていたいただきたいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	こどもの表現文化				
担 当 者	山田秀江				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.9	5.0	5.0	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>子どもの心や言葉を育てる絵本や童話、ストーリーテリング、ことば遊び、ペープサート、劇遊びなどを実践的に授業で取り上げ、こどもの表現文化に関する教材や児童文化財について理解を深めてもらえたのではないかと感じています。</p> <p>また、本授業は4年生配当の選択科目であり、受講生は8名と少ない授業でした。その8名の皆さんは非常に意欲的で熱心であり、これまでに身につけた保育実践力も高く優秀な学生でした。そのため、学生が主体的に実践に取り組めるような授業内容を取り入れました。期待通り、8名で協働的に学び合い、高め合うことができ、ときわ幼稚園でのお話し会の企画・実践もしっかりとやり遂げることができました。事後反省会では自分たちの保育を省察し、今後に繋げていくことができました。皆さんなら、来年から保育者として立派に社会で活躍してくれることと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	教職論				
担 当 者	山下敦子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	5.0	5.0	4.8	4.9	
学生へのメッセージ					
<p>小学校教師、中学校教師を目指すために、「教師とは」「教育公務員の職務と責任」「最新の教育課題」等をテーマに講義しました。先生になりたいという夢を持って入学してきた皆さんも、教職というのは「夢」ではなく「目標」に変わってきています。あこがれの存在ではなく、責任と社会的影響をしっかりと理解し、「教職に就く」という目標を達成するために今、身につけておくべき資質・技能を見つめなおしてください。講義を受けて、「教職のイメージが明確になった」「教職に就くには何が必要かがわかった」等の感想がたくさんありました。後期からは、指導法など、専門的な科目が増えてきます。未来の子どもたちにふさわしい教育が実践できる力を身につけて行ってほしいです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	乳児保育 I				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.3	4.3	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<p>授業内でとてもまじめに取り組んでおられる方とそうでない方の2層に分かれていることがわかりました。まじめに取り組んでおられる学生さんの中には、しっかりとメモを取り受講してくださっている様子も見て取れましたので、しっかりと学習を積み上げられていることと思います。授業回の途中で私語が多い学生さんがいた場合には席を指定するということは最初に伝えておりましたが、授業内でそれを実施しなければならなかったことはとても残念ですし、それを残念に思っておられた学生さんもいたことはアンケートからわかりました。授業内では手人形の提出がなかったことについて、頑張った成果を見てほしいという意見がありました。manabaでの提出を求めているかと思います。授業内での子育ての話については、保育の現場で必要な子育ての話を織り交ぜながらしていますので、それを今後の話として生かせるかどうかは学生さんの聞く力、活かせる力だと思っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	保育実習指導Ⅱ				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.2	4.8	4.7	4.8	4.9	
学生へのメッセージ					
<p>保育実習の最後の実習指導として、学生さんが総まとめとして受講しておられるようなそんな意気込みを感じました。</p> <p>就職を控えた大切な時期の実習であることも理解して実習指導にも積極的に臨んでおられました。最後の実習報告会は、学生さん一人一人が保育者としてやっていけるという確信を持ちながら聞かせていただきました。よく頑張られました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	保育教育課題研究Ⅱ				
担 当 者	松尾寛子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.1	4.5	4.5	4.7	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>公務員試験に向けてしっかりと頑張っておられました。5限がしんどいという意見がありましたが、どの時間帯であってもしっかりと取り組むことができる学生さんたちだと思っています。応援しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育内容（健康）				
担 当 者	中西利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.6	4.6	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>この授業では、前半は「乳幼児の心と体の健康」について、就学前の子どもの発達の実際の姿から理解を深めるため、映像と解説から学びました。年齢ごとの発達についての動画と解説は、イメージがしやすく、関心をもって受講している様子が、みなさんの提出した『授業ファイル』からうかがえました。マーカーで印を付けたり、メモを書き込んだりしている学生さんがたくさんおられ、主体的に学びに取り組む姿勢がみられ、嬉しく思いました。「こんなときどうする？ノート」を活用している学生さんが、特にAクラスに多く見られ、熱心に知識を吸収しようとしている姿勢に感心しました。今まで、就学前の子どもと直接接する機会はほとんどなかったそうですし、特に乳児についてはほぼ全くのことでしたので、この教材を使っの授業により、子どもの発達や発育について理解を深められたと思います。自由記述からも『子どもがどのように発達していくかを学ぶことができたことが良かった。』とあり、授業の目標を達成できて良かったです。</p> <p>後半の「健康な心と体を育む保育の実際」では、運動あそびの模擬保育を実施しました。使用する教材（遊具、運動用具）については、園で活用度の高い5種類を指定しました。1グループ4名以下で、全員が先生役、こども役を経験しました。自由記述に、『模擬保育など実践的な授業を通して、確実に知識や技術が身につけているなと体感できています。』『模擬保育の実践が経験になったし、子ども役になったとき、とても楽しかった。』『楽しかった！子どもの心を思い出しながら学ぶことができた。』『模擬保育でどういう風にしたらよいかわかって良かった。』『保育演習室での活動がたくさんあって楽しかったです。』とありました。みなさんが実践を通して、確実に学んでくれていることがわかりうれしいです。さらに、子どもたちが楽しいと思える遊び指導は、まず、指導する側が楽しいと思えることが求められます。みなさんが楽しみながら学んでいる姿に、学修目標の達成を実感しました。</p> <p>指導計画の作成や実践の打ち合わせや準備、練習についても協働性を発揮し取り組んでくれたと思います。自班の実践からはもちろん、他班の実践からも学ぼうとする姿勢に、「先生」をめざすための資質を感じ、頼もしいと思いました。自己評価（ふり返しシート）や他者評価（コメントシート）を通して、学びを深めてくれたのではないかと思います。</p>					

その他自由記述から、『たまに言い方がきつい。』『模擬保育中の先生の圧がすごくて先生の目をうかがいながら待機していたのでそれが少し気になりました。』という意見がありました。今後は気を付けたいと思います。

『ワークシート（指導の計画）』については、学生間で差がありました。丁寧に記述することを心がけていってください。

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	子どもと健康				
担 当 者	中西利恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.7	4.8	4.8	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>4年生前期は、保育実習Ⅱ及び保育実習Ⅲの実施やそれへの対応の補講日程の設定、また就職活動が重なり、落ち着いて授業に取り組むのが難しかったかもしれませんね。そのような中、みなさんは、4年間で最後の実習となる4～5月の保育実習体験を活かした課題にまず取り組みました。取り組みでは、各グループともに保育実習を丁寧に戻り、分析作業を行い、保育者としての専門性の向上に役に立つような発表プレゼンを実施してくれました。作成した資料は、皆さんに印刷して配布しましたが、どのグループの資料も、将来の保育職として就労に役立つと同時に、保護者としての子育てにも役立つ内容となっていました。</p> <p>保育所保育指針の読み込みと分析、まとめも、グループで活発に意見交換し、検討し、全員が書き出す作業をしました。A3用紙2枚にびっしり書き上げる作業はたいへんでしたが、発表から各班がしっかり協議して整理し、まとめていることがよくわかりました。</p> <p>本授業評価は、全ての分野において学科平均を超え、「授業内容」「授業方法」「学修成果」「総合評価」はいずれも4.7～4.8でした。学修成果が高かったことがわかり、うれしいです。</p> <p>子どもの健康にかかる複数の課題に、グループワークを基本に協働性を発揮しながらがんばって取り組まれていたと思います。課題毎に乱数表よりランダムグループを編成し、活動しました。グループ編成発表毎に盛り上がっていましたね。A・Bクラス全体で乱数表によるグループ編成を実施したので、4年生とはいえ、今までほとんどかわりのない同級生との交流も多々あったかと思います。協働性を醸成するよい機会になったのではないのでしょうか。</p> <p>A・Bクラス混合でのグループ編成方法は、昨年度の学生による授業評価の自由記述で、混合の方が良いという複数意見を反映し、変更しました。今年の自由記述では、グループ編成に関する意見はなく、「授業方法」や「学修成果」の評価が高かったことから、グループ編成方法は適切だったと判断します。</p> <p>自由記述に、『保育所保育指針の内容をよく理解できた』とありました。来年4月から保育現場で就労するにあたり、指針の内容を徹底的に分析し、理解することが目標の一つでもありましたので、達成できて良かったです。</p> <p>全ての実習を完了させた皆さんだからこそ、就職に向けて最後の学修の期間を、やる気や意</p>					

欲を減退させることなく、卒業後保育者として求められる専門性や実践力をもっと向上させて
よろう！と貪欲に学んでください。

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	体育				
担 当 者	近藤みづき・三木伸吾				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.7	4.5	4.6	4.5	
学生へのメッセージ					
<p>アンケートへの回答ありがとうございました。授業評価結果から、おおむね皆さんが満足する授業が展開できたと思います。</p> <p>この授業は、皆さんに目の前のこどもに対して、動きの問題点を見抜き、どのように教えるかを考える等、運動指導力の基盤を習得することを目的に実施しました。そのためには、単に体を動かすだけでなく、将来教師や保育者になる人として、各種運動の意味や特性を理解したうえで実技に取り組むこと、さらに、理解したことを振り返り、他者に伝えることを期待しました。皆さんには、授業で行ったことを振り返り、実習時や教員や保育士になった時に使えるように、今後自分自身で学習を深めてもらいたいと考えています。</p> <p>自由記述から「各授業で教え方の説明があり分かりやすく、得意苦手をあまり気にせずに行うことが出来た」や「わかりやすい内容で子供たちがどうすれば苦手意識が少なくなるかを教えてもらった」などの意見がある一方で、「体育館が暑かったため、改善してほしい。」という意見もありました。体育館の暑さについては大学に伝えています。</p> <p>最後に、授業の欠席やレポートの提出忘れは残念でした。今後の学生生活の中で改善を心掛けてほしいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教科指導法 (外国語)				
担 当 者	脇本聡美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.8	5.0	5.0	4.9	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>この授業は、小学校で「外国語活動」「外国語」を教えるために必要な知識と技術を高めることを目標にしていますが、どのくらい達成できたでしょうか。</p> <p>中学年での「外国語活動」、高学年の教科「外国語」は、みなさんが生徒として受けたことのない授業です。そのような科目の模擬授業を行うことはとても難しかったと思います。それでも工夫を凝らしたり、グループで協力したりする姿を見せてくれたことはとても嬉しく思います。小学校の英語教育について、みなさんに伝えたい事はまだまだあります。残りの1年半で伝える機会が持てたらと思っています。</p> <p>採用試験と重なる学生さんも複数いましたが、協力し合って頑張ったと思います！</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	小学校英語				
担 当 者	脇本聡美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.6	4.5	4.4	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>この授業は、小学校で英語を授業で教えるために必要な英語運用力を磨くことと、背景的知識を身につけることでした。どのくらい達成できたでしょうか。</p> <p>グループで協力して計画し、実施した模擬授業は素晴らしかったです。絵本を読み込む力も、企画をする力も、グループで協力して作り上げる力も、みなさんに備わっていることがよくわかりました。これは小学校教員として大事な資質です。これからも大事にしてください。</p> <p>一方、英語運用力向上の方はまだまだ頑張ってもら必要があります。学習の方法などでアドバイスが必要な時はいつでも研究室を訪ねてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	保育の心理学				
担 当 者	柳原利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	3.7	3.7	3.7	3.7	
学生へのメッセージ					
<p>この科目は科目名に「保育」とあるように、発達心理学の中でも乳幼児期の発達に重点をおく形で開講しているものです。また、保育の心理学以外で私が担当している1年後期に開講した発達心理学、同じ3年前期に開講している教育心理学の2科目と調整して、できるだけ同じ内容が重複しないようにしています。</p> <p>特にみなさんにとっては、教育心理学と同時期開講ということもあり、心理学の専門用語や研究者名などたくさん出てくるので、各回の復習が大変だったかもしれません。ただ、評価方法など大きく変えると却って混乱を招くと思い、小テストや提出物等の平常点も重視し、教育心理学と同じような評価方法で実施しました。ただし、教育心理学を意識して小テストの実施回数を変えたのですが、小テストの範囲が広いためにテストの頻度を上げてほしいという意見や、小テストをするならば定期試験は持ち込み可としてほしいという意見がありました。資料の持ち込みについては、次年度以降検討したいと思います。</p> <p>また、私の機嫌によって話し方が変わるというご指摘もいただきました。どなたかにつらい思いをさせてしまったようです。気づいておらずすみません。今後は感情に左右されないように気をつけたいと思います。</p> <p>いろいろなご意見をいただきありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教育心理学				
担 当 者	柳原利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	3.4	3.4	3.5	3.4	
学生へのメッセージ					
<p>この科目は心理学の専門用語や研究者名などたくさん出てくるので、各回の復習が重要です。3年生前期の卒業必修科目でもあり、小テストの結果が思わしくない場合には、授業時間外の1枚まとめの提出をうまく活用されている方もいらっしゃいました。</p> <p>自由記述では、いろいろなご意見をいただきありがとうございました。教育心理学と保育の心理学の同時期開講は、保育者養成コースのみなさんには大幅な内容重複がないようには気をつけたつもりでしたが、どうしても似ていたと思います。もっと差別化ができずにすみません。また、授業での説明の際に、私が気持ちよくなっているだけだという指摘もありました。どの内容の部分を指摘されたのかがはっきりと気づいていないのですが、おそらく、私が内容として興味深く感じたことをみなさんにも伝えたかったところについて、「気持ちよくなっている」という声をいただいたものと思います。気づいておらずすみません。授業中の私語への注意についても、不快に思われた方が複数いらっしゃったことがわかりました。今回個別にいただいている指摘の中には、正直なところ私にとっては厳しい意見もありました。今後いただいた意見を意識して授業を実施していきたいと思っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	カウンセリングの技法				
担 当 者	柳原利佳子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	3.8	3.9	3.9	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>この授業カウンセリングにおけるさまざまなテクニックを紹介するものでしたが、同時にピアヘルパー資格試験の中心的科目となることもあり、カウンセリングの中でもピアヘルパーという領域に特化した内容でもあります。ピアヘルパーに特化したという点では、他の授業ではあまり扱わない内容も多くありました。資格試験の受験を念頭にもおいているために、数多くの専門用語の理解も必要とされます。今後受験を考えている方は、各自で是非定期的に復習をしておいてください。</p> <p>資格試験を受験しない方にとっても、今後の教育・保育の現場で子どもたちの話、保護者の話、同僚の話などさまざまな場面で思い出して活用していただきたいと思います。</p> <p>自由記述ではいろいろな意見をいただきありがとうございました。今年は座席をみなさんに決めていただいたものを固定としていたこともあり、私語の頻度が高い人を前の空席に移動させると告げながら、移動させなかったという指摘を複数の方から受けました。この点は次年度以降の座席をどのようにするかを考え直したいと思います。また、グループ活動では、メンバーの人数に融通を持たせた方がグループを作りやすいという意見もあり、積極的に取り入れていきたいと思っています。</p> <p>12月にはピアヘルパー資格試験を実施します。興味のある方は是非受験を検討してくださいね。</p> <p>ご意見いただきありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1, 2, 3, 4		
科 目 名	日本国憲法				
担 当 者	柴山 慶太				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.2	4.0	4.1	3.9	4.1	
学生へのメッセージ					
<p>専門外の内容にも関わらず、1年間お付き合いいただきまして、どうもありがとうございました。</p> <p>憲法改正の話題も出ていることから、全国民が憲法について真剣に考えないといけない時期に来ていると思われます。授業でお話ししたことも踏まえて、周囲の人に憲法の知識を広めて欲しいと思います。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	地学概論				
担 当 者	森永速男				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.4	4.4	4.1	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>地学は、面白い学問であり、地球で生きている限り地球の本質（環境や現象）を理解する必要がある。生活している家や地域を知っておく必要があるのと同じように。また、地学は特別な手法を用いる学問ではない。すでに学んできた、物理学や化学、そして生物学の手法を用いて地球を理解する学問である。特に難しい学問ではないので、積極的に地球のこと、そこでの現象を理解するようにしてほしい。「現象には必ず理由がある!」、それが理解できれば、より興味を持って地学をはじめとする理科科目の学びに取り組めるのではないかと思う。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	算数				
担 当 者	平田 秀己				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.9	4.5	4.5	4.4	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>○3年次の模擬授業、教育実習の基礎を培うことを見据えて、算数の講義を進めて来ました。また、学校現場での様子も皆さんにお知らせしてきました。皆さんが、熱心に講義を受ける様子に感心しました。これからも素晴らしい先生を目指して学習に取り組んでください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教科指導法（算数）				
担 当 者	平田 秀己				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.5	4.9	4.8	4.8	4.9	
学生へのメッセージ					
<p>○模擬授業や模擬授業へ向けての準備に、熱心に取り組んでいる姿に、感心しました。学生時代にそのスキルを身につけておくと教職に就いたときに役に立ちます。これからも素晴らしい先生になるために学習に取り組んでください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	多文化理解教育論				
担 当 者	松井洋子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.0	4.5	4.5	4.6	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>皆さんに馴染みのない科目名だったと思いますが、この講座で学んだ皆さんはもう、クラスで「外国ルーツの子供たち」を前に途方にくれることはないと思います。彼らの抱える課題、その対応の現状、世界の文化の多様性の基礎知識もあるし、その子供たちを受け入れる日本の文化の進化にも思いを巡らせるほど、視点も広がりました。</p> <p>皆さんが実際に現場でも使えるよう、配布資料には多文化の情報、学校生活を各国語で紹介するなどのサイト情報も記載してあります。今後も活用してください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもと造形表現 A				
担 当 者	山成昭世				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.7	4.2	3.5	4.3	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>美術館見学や造形ワークショップに積極的に参加してください。驚きや発見がたくさんあります。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもと造形表現 B				
担 当 者	山成昭世				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.8	4.3	3.9	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>美術館見学や造形ワークショップに積極的に参加してください。驚きや発見がたくさんあります。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	子どもの保健				
担 当 者	唐木 美喜子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.4	4.3	4.3	4.4	
学生へのメッセージ					
<p>濃厚な授業内容を、まだしっかり目覚めていない頭に詰め込んでいくのは大変だったと思います。私は1限目の授業が好きです。働くようになったら思い切り明るい笑顔で、登園してくる子どもたちを迎えてほしいので、早起きの練習のお手伝いだと思っています。</p> <p>朝早くからの登校でしたが、皆さんは、いつも真面目に課題に取り組み、とても熱心に講義を聞いてくれている姿勢に感心していました。質問も多かったし、漢字のまちがいなどの指摘も的確でした。ありがとうございました。今年は、去年より26名も受講者が減ったので、ゆったりした教室配置で一人ひとりの顔がよくわかり、とても楽しい毎日が送れたことに感謝しています。</p> <p>私は毎回の3つの質問の回答をいつもとても楽しみにしています。質問の回答でディスカッションができれば、もっと面白かったと思います。年々、答えの様相が変わってくるので、時の変化に驚いたりもしました。楽しい回答をありがとうございます。</p> <p>教科書の内容だけでは、全てが伝えられないと思い、資料を足していった結果、毎回、内容が多い講義となってしまいました。しっかりついてきてくれたことに感謝しています。子どもに関わる仕事を目指す人には、知っておいてほしいことがたくさんあり、講義ではまだまだ伝えきれっていません。後は、君たちがこれからの授業の中で積み重ねてほしいと思っています。</p> <p>子どもと大人は違います。子供には無限の可能性があると思っています。その子どもにかかわる仕事を選んだことに自信を持ってください。子どものことを知れば知るほど幅広く奥深い知識が必要になってきます。子どもは日々関わる教師の影響を全身で受け止め、それを大人になってもよく覚えています。大きな可能性を秘めている子どもの全てに興味をもち、子どものことをよく知って、子どもに寄り添い育み、適切な対応ができる保育士になってほしいと願っています。</p> <p>課題の提出は、大変だったと思いますが、親御さんとの会話のきっかけになり、子どもの頃の自分を振り返るきっかけになったのではないかと考えています。</p> <p>膨大な資料は、教科書と共に見てもらえるよう配布しました。今度は、君たちが教える立場を</p>					

目指して進んでいくわけですから、どんな保育者になり、どんな子どもを育てたいかをしっかり持って頑張ってください。

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教科指導法（体育）				
担 当 者	田 中 稔				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.5	5.0	4.7	4.8	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>マスコミ等の報道で、みなさんは教師という職業が、保護者との対応や児童との関係づくりなど、大変な仕事だと感じている人が多いのではないかと思います。</p> <p>もちろん児童の6年間の成長の過程に携わるわけですから、いい加減な気持ちではできないのも事実です。</p> <p>ただ、みなさんが地道にコツコツがんばれば、児童、保護者、同僚教師など、誰かが必ず評価してくれます。困ったときは同僚や先輩に助言を求めるのも大切です。</p> <p>事実、私はみなさんのすべての模擬授業を見て、授業者、児童役が一体となった、今までにないレベルの高い模擬授業だったと評価しています。</p> <p>みなさんは卒業後、教採テストの結果に関わらず、正規教員、非常勤講師として子供たちの前に立つことになる可能性が高いです。イチロー選手が言った「がんばっても報いられないこともある。でもがんばらなければ決して報いられることはない。」当たり前のことですが、教師という職業や人生を考える上で深い意味を持っていると思います。</p> <p>ぜひ、この職業を選んで良かったと言えるよう、「ええ先生」を目指して頑張ってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	英語コミュニケーション1				
担 当 者	千石真理				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
3.5	4.5	4.5	4.4	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>国際化、多様化が進む社会ですので、将来皆さんも職場で異文化の子供、生徒と関わるかことになるでしょうし、英語を教える立場にもなるでしょう。英語で自信をもってコミュニケーションが取れるよう、勉強を続けて下さい。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	保育内容（言葉）AB				
担 当 者	多田琴子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.5	4.6	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>前期は0歳から小学校に入る前までの乳幼児の言葉について、子どもの言葉の発達と指針・要領を絡めて保育者の乳幼児への言葉に対する感覚が豊かに育つ関りについて授業を行いました。</p> <p>保育者の関りの在り様で、子どもの語彙、語彙のもつ意味の捉え、言葉を交わす楽しみの質も異なることを意識して、子どもの前に立つ保育者としての言葉遣いをこれからも意識して身に付けていきましょう。</p> <p>指針・要領には保育者の身に付ける基本が書かれています。自分勝手な解釈ではなく、ネット情報ではなく、基本を根拠に自身の学習を進めましょう。</p> <p>子どもが喜び、豊かな言葉環境になりうる児童文化財についても、読んだり作ったり使ったりして技術の向上に努めていきましょう。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	小学校音楽				
担 当 者	瀬川和子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.4	5.0	5.0	5.0	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>受講者数が 10 名と、例年より少なかったこともあり皆さんの発言場面を多くすることができ、その結果学生同士での学びを深くすることが可能になったものと考えています。I 学生一人ひとりの予習・準備も充分であり、学生自身、相互に良い刺激となっていました。</p> <p>皆さんは大変意欲的であり、問題意識も高かったです。授業参加態度も熱心で協力的であったことにより本年度の授業が成立したと考えております。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	ピアノ実践奏法				
担 当 者	瀬川和子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.2	4.9	4.8	4.9	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>受講者全員、授業以外に熱心に学修されました。多くの実習を経験し、対象とする幼児の姿が具体的に見えてきましたので子どもと音楽表現についての関係を考えながら課題曲に取り組んでももらいました。その中で各自の問題点に気づき、解決のための練習に励み、理想に到達できたことで達成感を持たれたことでしょう。なお、企業・福祉方面に進む人も各楽曲に大変熱心に取り組み、自分の音楽表現ができるようになりました。</p> <p>各自のやり方でこれからも音楽と向き合ってください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	1		
科 目 名	音楽 I AB				
担 当 者	山崎祥代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
4.3	4.6	4.5	4.5	4.6	
学生へのメッセージ					
<p>大学に入ってから初めてピアノに触った人も沢山いたと思いますが、楽譜を読むことに慣れてきましたか？毎日少しでもピアノの練習をすることが習慣になったでしょうか？</p> <p>幼児歌曲の中には伴奏が難しい曲もありますが、いろいろな調のカデンツを習得することによって伴奏を簡単にできる、ということを感じてもらえたのではないかと思います。</p> <p>今期、皆さんとてもよく頑張って取り組んでくれましたので、この調子で後期も引き続きピアノ曲・弾き歌い曲のレパートリーを増やしていきましょう！</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	音楽ⅢAB				
担 当 者	山崎祥代				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリーⅠ (学生自身)	カテゴリーⅡ (授業内容)	カテゴリーⅢ (授業方法)	カテゴリーⅣ (学修成果)	カテゴリーⅤ (総合評価)	
4.2	4.6	4.6	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>今期は、現場に出たら毎日のように使う生活曲をマスターし、リズム運動の際に使えるマーチ・かけ足・スキップ・ギャロップなどの伴奏もできるようになりましたね。その他にも幼児歌曲のレパートリーが増えたと思いますし、採用試験で使えるようなピアノ曲を習得できた人もいるでしょう。</p> <p>今後、ピアノの個人レッスンは選択しない限り受けられなくなりますが、せっかくここまで身に付けた技術が衰えないように、時間を見つけてピアノに向かってください。</p> <p>いつも、周りには子どもたちがいると想像し、笑顔で弾き歌いができるようになると良いですね。そして、子どもたちと音楽でコミュニケーションが取れるような先生になってもらえたらとても嬉しいです。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教科教育法（家庭）				
担 当 者	松井奈津子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I （学生自身）	カテゴリー II （授業内容）	カテゴリー III （授業方法）	カテゴリー IV （学修成果）	カテゴリー V （総合評価）	
4.7	5.0	5.0	5.0	5.0	
学生へのメッセージ					
<p>小学校の教員として、確かな実践力を身に付けて欲しいと考えて、授業を行ってきました。それぞれのよさや工夫がよく発揮された模擬授業であったと思います。他者と協働して取り組む姿勢、何事にも積極的に関わる気持ちを大切にしてこれからも活躍してください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	生活				
担 当 者	松井奈津子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.2	4.2	4.4	3.8	
学生へのメッセージ					
<p>幼児教育と小学校教育とをつなぐ「生活科」の特徴について、体験的実践的に理解できるよう授業を進めてきました。</p> <p>この授業で学んだことを、後期の学びに活かしてください。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	教育相談				
担 当 者	内田 多恵				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.4	4.3	4.3	4.3	
学生へのメッセージ					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 多くの方に評価していただけて幸いである。評価を真摯に受け止め、教育相談に係わる膨大な理論と実践を限られた時間でもっと効率よく伝える工夫を今後も行っていきたい。そのためには学生の皆さんに授業後のふりかえりだけでなく授業の予習につながる課題をだしていくことも一つかと考える。 ・ 多くの方がこの授業に興味をもって取り組んでいてくれたことは大変ありがたいことである。もし、教職員になれば、授業の内容は現実となって皆の前にあふれ出てくる。今回の授業は教育相談のスタート地点である。教育相談に必要な力は多岐に渡る。今後も学びつづけ、想像力をもって、子どものことを一番に考え、取り組んでほしい。そして自分の心と体も大切にしながら、自分らしくこの先の歩まれることを切に願う。 					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	社会的養護 I				
担 当 者	山本 邑太				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.5	4.5	4.5	4.7	
学生へのメッセージ					
<p>難しい内容であり、至らない部分もたくさんあったと思いますが、前向きに受講していただき嬉しく思います。半期と短い間でしたが、ありがとうございました。これから実習等、忙しくなっていくと思いますが、自分の気持ちを確認しながら一つ一つクリアしていただけたらと思います。応援しています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	小学校図画工作				
担 当 者	平井眞由美				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
学生へのメッセージ					
<p>受講された学生の皆さんとは貴重な時間を共有できました。作品をまとめたものはぜひどこかで生かしてほしいです。ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	4		
科 目 名	子どものリスクとレジリエンス				
担 当 者	松野敬子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.6	4.1	4.2	4.0	4.2	
学生へのメッセージ					
<p>保育や学校現場は、子どもの安全に対して厳しく求められる時代であり、子どものリスクとはどういったことがあるのかを知り、その対応策を知っていることは重要です。まだまだ、現場の保育者や教職員の方々にも、その知識は不足しており、研修など盛んに行われています。</p> <p>学生である皆さんが、しっかり学ばれ、就職先で一目置かれ、子どものリスクマネジメントを行う人材としての役割を果たし行くことが出来れば、職場で大きな自信になるのではないかと思います。「事故は予測可能である、予防可能である」「子どもはその特性から、大人とは異なる事故のリスクがある」。これは WHO の考え方であり、世界標準です。</p> <p>授業を熱心に受けてくださりありがとうございます。</p> <p>毎回の感想や体験に基づく気づきなど、私も「なるほど」と思いながら読ませていただきました。就職されても、この知識を活かしていただけることを祈っています。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	2		
科 目 名	障害児の理解と支援 I				
担 当 者	川島直子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.5	4.7	4.7	4.7	4.8	
学生へのメッセージ					
<p>皆さんが意欲的、積極的に授業を受けてくださったこと、大変嬉しく思っております。また、障害についてしっかり理解を深め支援についてよく考えており、学ぼうという姿勢が素晴らしかったです。今後皆さんが保育者になるにあたり、障害の知識や支援の方法について必ず必要となります。引き続き理解を深めていき今後の保育に活かしていただけたら嬉しいです。</p> <p>短い間でしたが、大変楽しい授業でした。</p> <p>ありがとうございました。</p>					

学生へのメッセージ

学 科	こども教育学科	学 年	3		
科 目 名	子どもの食と栄養 I AB				
担 当 者	進藤容子				
カテゴリー別授業評価調査結果					
カテゴリー I (学生自身)	カテゴリー II (授業内容)	カテゴリー III (授業方法)	カテゴリー IV (学修成果)	カテゴリー V (総合評価)	
3.4	4.1	4.0	4.1	4.0	
学生へのメッセージ					
<p>皆さん、積極的な態度でよく学んでいただけていました。実習では自然に役割分担したり協力する姿が見られ、保育者として頼もしいと感じました。今後も、学生全員が学び合うことのよさを実感できるような、授業内容を工夫していきたいと思えます。</p>					